

## 2-13-2 伏見城下にあった金森氏の屋敷

### ① 長近の屋敷

金森長近の屋敷は豊臣期の伏見城下を描いた『伏見桃山之古図』には「金森法印」と記述されている。

※金森長近の法号は「金森<sup>ほういん</sup>法印」で、「金森出雲」は金森氏第2代可重の号である。

城下図で金森長近の屋敷が特定できるのだが、「法印」でなく「金森出雲」が町名になった経緯は分からない。

### ② 可重の屋敷

<sup>ふかくさおおかめだに</sup>深草大亀谷金森出雲町に可重の屋敷があった。金森氏第2代可重の号「金森出雲」のまま、町名になっている。

『伏見桃山之古図』には、城の北西に位置する土墨と堀の角に東西に長い可重の「金森出雲屋敷」が確認でき、通りは現在の伊達街道に面している。

藪地として金森出雲屋敷跡地が江戸期から明治期以後も残されており、江戸期と明治期の各伏見の地図には「出雲<sup>いずもちょう</sup>丁」が見え、「金森出雲町」の町名は今も残され伝えられている。

リーフレットより